

日台韓における電車の中、空港の待合スペースにおける親子の姿

—スマホ依存傾向のある子どもたち—

筑波大学医学医療系 徳田 克己

東京未来大学子ども心理学部 西村 実穂

筑波大学医学医療系 水野 智美

I. 問題の所在と目的

電車の中は到着地までの「待ち時間」である。空港、病院、テーマパーク、渋滞中の車の中などでも待ち時間がある。従来、親と子どもはこのような待ち時間を利用して、絵本を読んだり、言葉遊びをしたりといった、さまざまなコミュニケーションをとってきた。それが子どもの言葉や社会性を発達させることにつながった。しかし、現在、その待ち時間の使い方が大きく変わってきている。その原因がスマートフォンであり、携帯ゲーム機である。親子ともども、無言でスマホやタブレットを眺めており、このことが親と子どものコミュニケーションの時間を大きく減少させているのである(Nishimura & Tokuda, 2017)。社会全体で見ても、歩行中であってもスマホやゲーム機を手放さず、事故が多発して、歩きスマホが社会問題化している状況がある(Mizuno, Tokuda & Cho, 2016; Mizuno, Nishimura & Tokuda, 2016; Mizuno & Tokuda, 2016)。歩きスマホの割合に関しては、国・地域によって差異があることが確かめられている(Tokuda & Mizuno, 2017)が、電車内の親子の過ごし方に関しては国際的に比較した研究は見当たらない。

そこで本研究では、スマホやゲーム機への依存傾向が親子のコミュニケーションに影響を与えていることを確認するために、アジアの中で最も歩きスマホの割合が高いことが確認されている台湾(Tokuda & Mizuno, 2017)、また日本

と同様にスマホ依存や歩きスマホが大きな社会問題になっている韓国、さらに日本の3つの国・地域における、近距離電車内での親と子ども(1歳～8歳)の過ごし方を観察した結果を報告したい。また、子どもがある程度自由に移動できる空間である日本の空港の待ちスペースにおいて、親子がどのような時間を過ごしているかについて観察した結果についてもふれたい。

II. 方法

(1)電車での観察対象と手続き

日本の電車：2017年6月25日と7月1日の計9時間、山手線、京浜東北線(田端駅～大宮駅)

台湾の電車：2017年8月13日と14日の計6時間、台北 MRT 文湖線

韓国の電車：2017年10月1日と2日の計5時間、ソウル地下鉄2号線

母親あるいは父親と1歳～8歳と推定される子どものペアを観察対象にした。二人とも座席に座っている場合と親が座席に座り、子どもがバギーに乗っていて親と対面している場合を観察した。どちらかが立っている親子は除外した。また、両親と複数の子どもが乗車している場合、家族全員が並んで座っている場合は除外し、親と1名の子どもだけで座っており、他の家族とコミュニケーションをとれない位置にいる場合のみを観察対象にした。

5分間以上の観察ができたケースのみを有効データとした。つまり、観察していても5分以

内に下車したり、他の家族と話をしたケースは無効データとした。観察時間は5分間であり、5分間以上乗車している場合であっても観察開始から5分間のデータのみを有効とした。その結果、日本では82組、台湾では98組、韓国では42組のデータを有効とした。

親子の組み合わせは、日本では母親+男児20組(24%)、母親+女児30組(37%)、父親+男児23組(28%)、父親+女児9組(11%)、台湾では母親+男児36組(37%)、母親+女児45組(46%)、父親+男児9組(9%)、父親+女児8組(8%)、韓国では母親+男児15組(36%)、母親+女児18組(43%)、父親+男児2組(5%)、父親+女児7組(17%)であった。子どもの推定年齢については、日本は平均4.87歳(標準偏差2.51)、台湾3.71歳(1.64)、韓国3.91歳(1.70)であった。

手続きは、親子のやりとりを観察できる場所から非参与観察を行い、子どもの行動と親の行動のそれぞれについて記録をとった。

(2) 空港の待合スペースでの観察対象と手続き

羽田空港：2017年8月25日(42組の親子ペア)と2018年1月7日(13組の親子ペア)の計3時間に観察した

那覇空港：2018年1月7日の2時間(14組の親子ペア)

札幌空港：2018年1月7日の2時間(18組の親子ペア)

以上、計87組の親子ペアであった。

親子の組み合わせは、全体で母親+男児32組(37%)、母親+女児17組(20%)、父親+男児22組(25%)、父親+女児16組(18%)であった。子どもの推定年齢については、平均3.94歳(標準偏差1.66)であった。

手続きは、親子のやりとりを観察できる場所から非参与観察を行い、子どもの行動と親の行動のそれぞれについて記録をとった。

III. 結果と考察

表1に3つの国・地域での電車の中及び日本の空港での子どもの行動を、また表2に親の行

動を示した。5分間に、複数の行動が出現した場合には重複して計数したため、観察した行動の百分率の合計は100を超えることになっている。表1と表2から確認されたことを以下に箇条書きで述べる。

①表1をみると電車内で親に話しかけていた子どもは日本が最も少ないことがわかる(32%)。しかし、表2をみると、43%の親は子どもに話しかけており、台湾(36%)よりは多く、韓国(50%)よりは低率であった。

②親と言葉遊び(なぞなぞやクイズ)をしたり、手遊びをしていた子どもは日本では皆無であった。この種の関わりは、子どもの言語の力を伸ばすことにつながるので欠かすことができない。同時に、親も勉強しておかないと、子どもを楽しませる言葉遊びや手遊びをすることはできない。つまり、親の日常の努力が必要な関わりである。それを日本の母親がまったく行っていないことは残念なことである。

③一方、韓国では12%の子どもが親と一緒に言葉遊びや手遊びをしていた。また韓国では本を読んだり、絵本を見ている子どもが10%おり、日本や台湾よりも高率であった。これらは韓国の家庭において幼児教育が盛んにおこなわれていることと関係している。将来の受験に備えて、低年齢から少しでも知識を身につけさせたいと考えている親が、遊びの場面でも知識を身につけさせようとしているのであろう。

④子どもが電車の中でスマホを最も見ていたのは日本であり(16%)、次いで韓国(12%)、台湾(10%)であった。ゲームをしていた子どもも日本が最も多く(9%)、次いで韓国(7%)、台湾(3%)であった。タブレットを含めると、電車の中で子どもがひとりで電子機器を用いて時間を過ごしていたのは日本(26%)、韓国(19%)、台湾(14%)の順であった。スマホの利用内容はどの国でもYouTubeとゲームであった。日本では4人にひとりの子どもがスマホやゲーム機を手にして、黙々と動画を見たり、ゲームで遊んでいる「スマホ依存状態」であった。

表 1. 電車の中、空港待合スペースでの子どもの行動

子どもの行動	日本の電車 (82)	台湾の電車 (98)	韓国の電車 (42)	日本の空港 (87)
親に話しかける	32%	41%	40%	5%
外を眺める	32%	16%	2%	18%
スマホを使う	16%	10%	12%	8%
食べ物を食べる	16%	0%	10%	10%
車内を見る	13%	8%	0%	—
玩具で遊ぶ	10%	4%	17%	8%
ゲームをする	9%	3%	7%	8%
絵本を読む	6%	1%	10%	2%
タブレットを使う	1%	1%	0%	8%
寝る	0%	2%	2%	2%
言葉遊び、手遊び	0%	2%	12%	2%
歩き回る、散歩	—	—	—	11%
空港テレビを見る	—	—	—	8%
ドリル等の勉強	—	—	—	2%

表 2. 電車の中、空港待合スペースでの親の行動

親の行動	日本の電車 (82)	台湾の電車 (98)	韓国の電車 (42)	日本の空港 (87)
子どもに話しかける	43%	36%	50%	24%
スマホを使う	32%	39%	36%	30%
外を眺める	15%	4%	0%	0%
食べ物を食べる	6%	0%	0%	7%
子どもと遊ぶ	6%	0%	7%	6%
スキンシップ	5%	0%	2%	3%
一緒にスマホを見る	4%	1%	5%	1%
寝る	2%	1%	2%	0%
子どもの世話をする	2%	1%	7%	2%
ゲームをする	1%	1%	0%	0%
本を読む	1%	1%	5%	3%
車内を見る	1%	0%	0%	—
タブレットを使う	0%	2%	0%	0%

⑤表2の保護者の過ごし方をみると、スマホを使っていた親は、日本(32%)が台湾(39%)、韓国(36%)よりも少なく、子どもの過ごし方とは異なる結果になった。とは言っても、どの国・地域でも3名にひとりの親はスマホを手に入れていることになる。観察した5分間、子どもにまったく興味を示さず、黙々とスマホを操作していた親も多く、その間、子どもに話しかけられても無視するか、生返事をするような状態であった。

⑥子どもも親も、日本では「外を見る」割合が高くなっているが、これは台湾の MRT は一部の区間が地下を走っていること、韓国ではほとんどの区間が地下を走行しており、地上に出ているのは大きな川(ハンガン)を渡る区間だけであったことが影響している。

⑦子どもが食べ物を食べていたのは日本が最も多く(16%)、次いで韓国(10%)であった。台湾が0%であるのは、駅構内、プラットホーム、電車内では飲食が禁止されているからである。

⑧日本の3つの空港の待合スペースでの観察では、待ち時間が長いいためか、子どもは走り回ったり、散歩したりすることがあった。スマホを使っている子どもは8%であり、電車よりも少なかったが、タブレットを使っていた子ども、ゲーム機を使っている子どもがともに8%いた。親の3割はスマホを使っており、子どもと話をする親は電車に比べて少なかった。

IV. まとめ

2016年にアメリカ小児科学会が出した声明は「生後18カ月未満の子どもは、ビデオチャットを除き、スクリーンメディアの視聴は避けるようにする。」「生後18カ月以上、24カ月未満の子どもにデジタルメディアを見せたい場合には、質の高いコンテンツを選んだ上で、子どもと一緒に視聴しながら、その内容について、子どもが理解できるよう手助けする。」「2~5歳の子どもにスクリーンメディアを見せる場合、1

日1時間に制限し、質の高いコンテンツを選ぶようにする。養育者は子どもと一緒にメディアを見て、その内容や、その内容が彼らを取り巻く世界とどのように適用しているのか、理解する手助けする。」としており、映像を利用する際には養育者とのコミュニケーションを図ることが重要であることを提言している。

しかし、小児科医でお茶の水女子大学副学長の榊原洋一氏やお茶の水女子大学教授の坂元章氏は「登場して久しいテレビでさえ、子どもに見せることで何らかの影響があるのか研究中有である。スマホの影響に関する研究結果や科学的根拠はまだない」と発言している。

幼児期の長時間のスマホ利用が親子のコミュニケーションの量と質を低下させ、その結果として幼児の言語発達に歪みが生じるのではないかという視点の研究は、国内外でもほとんどない状況である。しかし、本研究の結果から、スマホやタブレットの使用によって、親子のコミュニケーション、特にその量に悪影響を及ぼしていることが明らかになった。

「子どもを静かにさせるには、食べ物を食べさせる、映像を見させる、ゲームをさせるの3つの方法が有効である」としばしば言われているが、今回調べた3つの国・地域のうちで、日本が最もこれらの方法を用いていることがわかった。親が子どもにたくさん関われば関わるほど、子どもの言語と社会性は発達するが、日本は韓国と台湾よりも、電車の中での子どもとの関わり(親に話をする、親と言葉遊びや手遊びをする、親に抱っこされる、絵本を読んでもらうなど)が少なかった。このことが子どもの言語や社会性の発達にどのように影響するかは非常に興味深い研究課題である。今後はこの課題の解明に取り組んでいきたい。



写真 1. 台湾の親子

母親が子どもの背中に文字を書いて、子どもがそれを答える遊びをしていた。



写真 2. 台湾の親子

母親は乗車してすぐに子どもにタブレットを渡した。それから二人は話をする事もなく、母親はスマホ、子どもはタブレットを使っていた。



写真 3. 韓国の親子

親子でじゃんけんをして、勝った方がクイズを出すという遊びをしていた。



写真 4 韓国の親子

地下鉄に乗ったらすぐに、母親はスマホ、子どもは携帯電話を取り出し、ずっと操作していた。親子の会話はほとんどなかった。

文献

MIZUNO T., & TOKUDA K.(2016)Increase in the Percentage of Pedestrians Using Smartphones while Walking since the Release of "Pokemon Go" - How they are causing safety concerns to vulnerable pedestrians -. *The 17th Asian Society of Disable Sociology*, 29-32

MIZUMO T., TOKUDA K., & CHO H.

(2016)The Current Situation of "Using a Smartphone while Doing Something Else" and Related Factors. *Journal of Digital Convergence*, 14(12), 561-569.

MIZUNO T., NISHIMURA M., & TOKUDA K.(2016)Current Situation of Using Their Smartphones While Walking in the Major Stations and its Surrounding Area in Tokyo and Osaka. -Focused on the result of on-site

calibration research-. *The Asian Journal of
Disabile Sociology*, 15, 1-10
NISHIMURA M., & TOKUDA K.(2017) How
Guardians Take Care of Their Children in
a Train. *The 9th Asian Society of Child
Care* ,81-83.

TOKUDA K., & MIZUNO T.(2017)The
Situation of Increased Number of People
Using Smartphone for Pokemon Go While
Walking in Taiwan. *The 18th Asian Society
of Disabile Sociology*, 49-52.

The Way Parents and Children Behave in the Train and in the Waiting Area of the Airport in Japan, Taiwan, and Korea Children with Tendency of Smartphone Addiction

In this research, in order to verify that smartphones and game players are affecting the communication between parents and children, we researched how parents and children (1 to 8 years old) spend time in a short distance train in Taiwan, where the ratio of people using smartphones while walking is the largest in Asia, Korea, where addiction to smartphone and using smartphone while walking is a social problem similar to Japan, and Japan. The train lines that are subject of observation, Japan: 9 hours from June 25th to July 1st, 2017 on Yamanote Line and Keihintohoku Line (Tabata Station to Omiya Station), Taiwan: 6 hours on August 13th and 14th, 2017 on Taipei MRT Wenhu Line, Korea: 5 hours on 1st and 2nd of October 2017 on Seoul Subway Number 2. The subject of observation was pairs of mother or father and a child who is at the age of 1 to 8. We considered the data effective when we could observe them for more than 5 minutes. As a result, valid data was collected for 82 pairs in Japan, 98 pairs in Taiwan, and 42 pairs for Korea. The results were shown below. ① The least number of parents talked to the children in Japan (32%). However, 43% of the parents talked to their child and it was more than Taiwan (36%) and less than Korea (50%). ② None of the parents play with words with their child (riddles and quizzes) or play with their hands. ③ 12% of the parents played with words and hands in Korea. Also, 10 more percent of them read books and looked at picture books. It was more than in Japan or Korea. ④ The most number of children watched a smartphone in Japan (16%), followed by Taiwan (10%). The most number of children played games in Japan (9%), followed by Korea (7%) and Taiwan (3%). When it includes tablet, the most number of children played with electronic device alone in the train in Japan (26%), followed by Korea (19%), and Taiwan (14%).